

2026年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘A)成果報告書

書式 1 (適宜行追加可)

受入担当 教員	所属・職	商学部・教授
	氏名	菅原智
海外客員 教員	所属・職	Sheffield University Management School, University of Sheffield
	氏名	Olga Cam
招聘目的		2. 共同研究
招聘期間		2026 年 6月. 1 日 ～ 2026 年 6 月 28 日
成果報告		共同研究の内容
以下の内容を日本語で記載して下さい。		
1. 授業担当及び研究		
(1) 授業科目名		
(2) 授業担当の成果		
(3) 研究の内容		
(4) 研究の成果		
2. 共同研究		
(1) 共同研究の内容		
(2) 共同研究の成果		
3. 特別枠		
(1) 活動内容		
(2) 成果		
		本招聘では、Dr. Olga Cam（University of Sheffield Management School）を海外客員教員として受け入れ、「会計教育分野のサステナビリティ及びデジタル技術に関する最新動向」を主題に共同研究を実施した。研究の中心は、サステナビリティ会計・サステナビリティ保証を会計教育へどのように導入するか、また生成 AI 等のデジタル技術を用いて学習者の理解をどのように高められるかを検討することであった。 招聘期間中は、関西学院大学での研究打ち合わせに加え、共同研究者および関係教員と連携し、国内の複数機関で授業実践、講義、データ収集、研究会を行った。6月12日から14日にかけては、広島国際大学および県立広島大学において、学生を対象としたアンケート調査等のデータ収集を実施し、Olga Cam 先生による授業・講義を行った。これにより、英国における会計教育、とりわけサステナビリティ教育の実践について紹介し、日本の会計教育制度・授業実践との比較を行った。 また、6月17日から21日にかけて、中央大学、京都、芦原温泉で研究打ち合わせおよびデータ収集を行った。中央大学では、川端千暁先生の「監査論」において、菅原智・Olga Cam 両名がゲストスピーカーとして「企業のサステナビリティと生成 AI：会計・監査教育への影響」をテーマに講義を行い、学生から教育効果に関するデータを収集した。講義では、サステナビリティ報告、CSR 報告、マテリアリティ、サステナビリティ保証、ISSA 5000 等の国際的動向に触れ、生成 AI が会計・監査実務および教育に与える影響について議論した。さらに、京都では TKC 研修会におけるデータ収集と Olga Cam 先生との追加打ち合わせを行い、芦原温泉では国際会計研究会を開催し、関連するインタビュー調査を実施した。 共同研究者として、菅原智（関西学院大学）、内藤周子（弘前大学）、上野雄史（静岡県立大学）、加納慶太（県立広島大学）を中心に、会計教育におけるサステナビリティ、生成 AI、金融リテラシー、学生の学習効果測定を接続する研究枠組みについて検討した。Olga Cam 先生が作成・実施した教材には、アカウンタビリティとサステナビリティ、サステナビリティ報告・保証、英国の大学教育、AI・SNS 時代の金融リテラシー等が含まれ、学生向けに英語・日本語を併用した教育実践として展開された。

共同研究の成果

第一に、サステナビリティ会計教育とデジタル技術活用を結びつける共同研究の具体的な研究設計を進めることができた。招聘前の申請段階で計画していた、英国におけるサステナビリティ会計教育の実践から学び、日本の授業現場で応用・検証するという目的に沿って、複数の授業・研修会で教育実践とデータ収集を行った。これにより、学生の理解度、関心、会計教育におけるサステナビリティおよび生成AIの受容に関する分析の基礎資料を得ることができた。

第二に、Olga Cam 先生の専門であるサステナビリティ会計教育・金融リテラシー教育と、菅原を中心とするデジタル技術・生成AIを活用した会計教育研究を接続し、国際共同研究として発展させるための共通教材、質問票、インタビュー項目の方向性を整理した。特に、サステナビリティ情報開示・保証の国際的な動向と、AI・SNSが個人の意思決定や金融行動に与える影響を会計教育の中でどのように扱うかについて、実践的な教材開発の端緒を得た。

第三に、広島、東京、京都、福井での授業・研究会・打ち合わせを通じて、共同研究者および関連教員とのネットワークを拡充した。広島国際大学、県立広島大学、中央大学、TKC 研修会、国際会計研究会等で得られたデータと意見交換は、今後の共同研究論文および国際学会報告に向けた重要な基盤となる。

以上の成果を踏まえ、今後は収集したアンケート・インタビュー資料を整理・分析し、サステナビリティ会計教育と生成AI活用に関する共同研究として、国際学会での報告および国際ジャーナルへの投稿を目指す。また、本招聘を通じて構築された University of Sheffield との学術交流を継続し、学生交流や教育面での連携可能性についても引き続き検討する。

受入担当教員が成果報告欄を記入される場合は本書式をお使いください。

* 本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます